共に学び，共に輝き　未来を切り拓く「あかいっ子」の育成

まなび

令和６年２月２１日（水）　東松島市立赤井小学校

１２月に実施した標準学力調査の結果についてお知らせします。現在，この結果について各学年で考察し，進級・進学後の標準学力調査（４月実施予定）に照準を合わせ学力向上に向けた取組を行っています。お子さんが自信を持って進級・進学できるように，３月には徹底した復習や問題演習を行う「学び直し期間」を設定する予定です。

なお，封筒に入れて配付しました個人の結果をご覧いただき，伸びている点や課題となる点についてお子さんと一緒にご確認ください。明日の懇談会にて担任より学年の傾向についてお話しいたします。

令和５年度第２回標準学力調査の結果から

（全学年実施）

１　国語

（１）結果と考察

全学年で全国平均正答率及び市の平均正答率を上回る結果となりました。過去２年間の結果と比較しても，数値が上昇傾向にあります。これは，これまでの積み重ねに加え，前回の標準学力調査（今年度４月実施）の結果を受け，更なる読書活動の推進や読み取ったことを伝え合う活動を取り入れた授業改善，業前の「国算タイム」における長文読解の問題演習等の取組を行った成果と考えられます。

領域別に見ると，「読むこと」「書くこと」の領域で全国を上回るか，ほぼ同等という結果となりました。一方，言語に関する問題（漢字や文法等）や情報の扱い方に関する問題（読み取った情報の関係性について理解したり整理したりするもの）において課題が見られる学年もありました。また，正答率の高かった「読むこと」の中でも物語文の読み取りや「話すこと・聞くこと」については，比較的低めの傾向にありました。

（２）今後の取組

・漢字や文法等について繰り返し復習する時間を設けます。
・物語を読む読書活動を推進し，物語文に触れる機会を増やします。
・聞き取ったことをメモしたり，分かったことや自分の考えを発表したりする機会を設けます。

２　算数

（１）結果と考察

ほとんどの学年で全国平均正答率を上回るか，ほぼ同等という結果でした。特に活用の問題において正答率を伸ばした学年が複数ありました。これは，前回の標準学力調査（今年度４月実施）の結果を受けて，自分の考えを言葉で表すことができるよう授業の中で考えを説明する場面や自分の考えをノートに記述する場面を意図的に設けたことや，発展的な問題の取組を積極的に行った成果と考えられます。

領域別に見ると，「図形」の領域で全国を上回るか，ほぼ同等という結果となりました。一方，「測定」や「変化と関係」の領域において課題が見られる学年もありました。基礎の問題の正答率が全国平均を下回った学年が複数あり，「数と計算」の領域にも課題が見られます。また，全体として活用の正答率は高かったものの，誤答の内容を見ると問題文をよく読まずに解答したものがありました。問題文の情報量が多い問題形式に慣れさせる必要があります。

（２）今後の取組

・基礎的な四則演算，グラフや表の読み取りについて確認し，繰り返し復習する機会を設けます。
・活用に関する問題については，初めのうちは友達と協力しながら取り組ませるようにし，問題形式に慣れさせます。徐々に自分の力で解けるように段階を踏んで学習させます。